



各地域の「連携意識」から「協働意欲」へ

先日、小林眞八戸市長を会長とする「八戸市青少年問題協議会」が開催され、平成21年度の八戸市青少年健全育成の活動提言要綱が策定されました。この要綱は、八戸市の子どもたちを心身ともに健やかにたくましく成長させるために、学校・家庭・地域・企業の四者に取り組んでいただきたいことをまとめたものです。

活動提言『子どもたちは地域からはぐくむ』という視点による連携強化

〔提言内容〕

1 「さわやか 八戸 あいさつ運動」の展開

八戸市内すべての家庭、学校、地域社会、企業、団体等のあらゆる場面で、「さわやかなあいさつ」が充満するよう啓発・参加を呼びかける。また、家庭や学校で最低限のしつけを身に付けさせるための「返事をきちんとする運動」「履き物を揃える運動」や、クリーンなまちづくりを目指した「ゴミ拾い活動」を展開する。

2 青少年の健全育成の基盤となる「地域コミュニティ」の形成

- (1) 「特色ある学校づくり支援事業」を展開する。
- (2) 「さわやか 八戸 グッジョブ・ウィーク」を展開する。
- (3) 「地域コミュニティ」の形成の一環としての「開かれた」学校づくりを展開する。
- (4) 子どもの安全確保や健全育成のために、地域ぐるみでの取り組みを図る。

3 健全な家庭づくりへの支援

- (1) 「家庭の日」運動等の実践を通して、健全な家庭づくりへの促進を図る。
- (2) 母子保健の機会を利用した学習システムの充実を図る。
- (3) 子育てに関する体験や悩みが共有できる「乳幼児をもつ親たちの交流の場」の設定を図る。
- (4) 関係機関の広報啓発活動の内容充実と配付対象の拡充を図る。

4 学校外の体験活動の推進

- (1) 青少年団体における活動など学校外活動への参加を奨励する。
- (2) 自然体験活動を推進する。
- (3) 身近な体験活動の場の充実を図る。

5 いじめ問題、薬物乱用問題等、今日的な課題への適切な対応

- (1) いじめ問題の解決に向けた取り組みを図る。
- (2) 薬物乱用問題や喫煙防止、万引き防止等への対応を図る。
- (3) 社会環境改善のための地域ぐるみの取り組みを図る。
- (4) いのちの教育を含めた「生き方に関する指導」の充実を図る。

今年度は、各関係機関の連携について協議しました。第2回協議会では、地域連携の実践例として、今年度小中各1校のモデル指定校で行っている『地域密着型教育』の取り組み状況が発表されました。その中で、「連携・協力意識」からもう一步踏み込み、学校・保護者・地域社会それぞれが、地域づくりの当事者意識をもち、一丸となって子どもたちの健全育成に取り組む「協働意欲」の必要性について、多くの賛同が得られました。

子どもたちに確かな学びと豊かな育ちを！

～地域密着型教育を通して～

近年の急激な社会環境の変化は、私たちに恩恵をもたらす一方で、さまざまな問題をも引き起こしています。学校においては、非行・いじめ・不登校等の深刻な問題の他、不審者等による子どもたちの命に関わる事件なども頻発し、憂慮される事態となっています。八戸市においても、同様の状況が見受けられます。



これらの問題を克服・解決することを願って、これまでも、子どもたちの教育の担い手である学校・家庭・地域がそれぞれの役割に応じて連携・協力し、さまざまな取り組みを行ってきました。

しかしながら、学校とそれぞれの組織・団体等との間で情報の共有や連携が図られてはいるものの、各組織間の連携や地域の結束力という面では課題を残してきました。また、子どもたちの健やかな成長を願うという点で同じ基盤に立っている学校と保護者ではありますが、相互理解が十分でないために、行き違いや誤解が生じてしまう場合もあるようです。そのため、学校・家庭・地域それぞれがもっている教育力が十分に発揮し切れていない、という指摘があります。

そこで考えられたのが、家庭・地域の皆さんが学校教育により一層参画できる仕組みづくりや、地域の教育力を高める仕組みづくりを推進し、学校・家庭・地域が抱えるさまざまな課題の解決をめざす地域密着型教育です。

平成20年度モデル指定校……………柏崎小・第一中

平成21年度新規モデル指定校…八戸小・吹上小・長者小・中居林小・島守小
旭ヶ丘小・第三中・根城中・島守中

〈地域密着型教育の仕組み〉

